

健康状態別実習Ⅴ		対応 DP:3
履修年次:	3年次	単位数: 2単位 時間数: 90時間
目的:	健康状態が慢性的に経過する人と家族を統合的に理解し、QOLの維持・向上の必要性およびよりよく生きるための支援を学ぶ。	
目標:	1. 慢性の病気とともに生きてきた対象と家族を統合的に理解できる 2. 看護師として主体的にかかわり、対象との人間関係を築くことができる 3. 対象のQOLが維持・向上するための援助ができる 4. 保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 看護実践を通して、自らの看護観を深めることができる	
実習展開:		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 	
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 	
2日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。注目した構成要素からアセスメントを行い、看護計画まで立案する。看護計画に基づいて看護を実践し、対象の反応をふくめて振り返り、計画を評価する。 ・ 患者に必要な援助は、援助計画書をもとに、日々記録に追加修正したものを活用し、看護師または教員と調整して実施する。援助を実施した後は、実施した内容や対象の反応、評価を含め報告し、次の援助へつなげる。毎日30分程度の学生カンファレンスを行う。 ・ 対象の意思決定に沿った生活を送るための多職種連携の場に参加する。 ・ 学生カンファレンスの中で、看護問題(アセスメントを含む)と看護計画を発表する。 	
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ 病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 	
緩和ケア病棟見 学実習 (又は学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーションを受け、緩和ケア病棟の概要を知る。看護師と共に行動し、看護の実際を見学する。(病棟の看護計画を参考)多職種カンファレンスやデスカンファレンスに参加とスタッフ間のケアリングの実際を学ぶ。カンファレンスを行い、実習での気づきや学びを共有する。 ・ 緩和ケア病棟見学を終え学んだこと、生を全うできるような支援とは何かについて、まとめる。 ・ 学内実習:事前学習およびまとめ 	
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での学びを整理し、臨地実習を終え、感じたことや考えたことを自由に語り合い経験の意味付けを行う。自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 	
時間・期間:	オリエンテーション:	2時間
	病院:	8時間(8:30~15:30)×9日
	学内:	8時間(8:30~15:30)×2日
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)情報用紙 6)アセスメント用紙 7)看護計画 8)援助計画書・学習支援計画書	
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。	

健康状態別実習Ⅴ 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 健康状態が慢性的に経過する対象を理解できた		
	2) 疾病や治療が、対象および家族の生活・社会に与える影響を理解できた		
	3) 対象の生きがいや価値観を理解できた		
2	4) 対象と家族の思いをふまえた意思決定について理解できた		
	5) 対象を尊重し主体的にかかわることができた		
	6) 対象と家族の苦痛や思いを受け止め、尊重してかかわることができた		
	7) 対象との相互作用を通し、自己を振り返ることができた		
	8) 対象と適切な人間関係を築くことができた		
3	9) 必要な情報を意図的に収集できた		
	10) 健康状態に影響を及ぼしている疾患や経過、治療の影響についてアセスメントできた		
4	11) アセスメントをもとに個別性のある看護計画を立案できた		
	12) 安全・安楽・自立・個別性をふまえ、対象の状態に応じた援助を実施できた		
	13) 生活の再調整や社会復帰に向け、段階的な援助が実施できた		
	14) 実施した援助を評価・修正し、次に活かすことができた		
	15) 対象にかかわる多職種の中の看護師の役割を理解できた		
	16) 多職種との協働・連携について自己の考えを述べることができた		
5	17) 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレス等に挙げ、積極的に意見交換できた		
	20) 看護実践を通して、自らの看護観を表現できた		

合計(点)

欠課時間：	時間	教員サイン：
-------	----	--------

小児看護学実習		対応 DP:2
履修年次:	3年次	単位数: 2 単位 時間数: 90 時間
目的:	子どもの特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を習得する。	
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階や生活習慣、社会的背景をふまえ、対象と家族を理解できる 2. 看護者として主体的にかかわり、対象や家族との人間関係を築くことができる 3. 対象の健康状態や発達段階をふまえ、安全・安楽に留意した援助ができる 4. 小児医療における保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 看護実践を通して、自らの看護観を深めることができる 	
実習展開:		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 	
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 小児期の患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 	
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・ 注目した構成要素からアセスメントを行い、日々記録のなかで必要な看護を考え、対象の現在の状況に合わせた看護を実践する。対象(子どもと家族)の反応をふくめて振り返り、次の援助へつなげる。 ・ 受け持ち患者に必要な援助は、発達をふまえた視点や留意点を表現し、看護師または教員と調整して援助を実施する。 ・ 毎日 30 分程度、カンファレンスを行う。 ・ 学生カンファレンスの中で、対象をどのように捉えたのかを発表し、看護の方向性を検討する。 	
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ 病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 	
保育園実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢の異なる2つのクラスに 1 日ずつ入って実習する。 ・ 保育プログラムに基づき、保育士の指導を受けながら子どもと関わり、保育を実践する。 ・ 毎日 30 分程度、カンファレンスを行う。 	
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設、病棟の特殊性や、自分の行った看護を振り返り、感じたことや考えたことを自由に語り合い、学びの共有を図りながら経験の意味づけを行う。 ・ 自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 	
時間・期間:	オリエンテーション: 2 時間 病院: 8 時間(8:30~15:30)× 8 日 学内: 8 時間(8:30~15:30)× 1 日 保育園: 8 時間(8:30~15:30)× 2 日	
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)情報用紙 6)アセスメント用紙 7)援助計画書・学習支援計画書	
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。	

小児看護学実習 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入

5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生 評価	教員 評価
1	1) 発達段階や生活習慣をふまえ、対象を理解できた		
	2) 生活環境や健康状態が対象の成長発達に及ぼす影響を理解できた		
	3) 対象の健康状態が家族に及ぼす影響を理解できた		
2	4) 対象と家族の思いや価値観を理解できた		
	5) 対象と家族に関心をもってかかわり、反応をとらえることができた		
	6) 対象をひとりの人として尊重し、倫理的配慮をしながらかかわることができた		
	7) 対象とのかかわりを通し、自己の考えや言動を振り返ることができた		
	8) 対象の発達段階に応じたかかわりができた		
3	9) 必要な情報を意図的に収集できた		
	10) 対象の状態をとらえるために、正確なバイタルサイン測定・必要な観察ができた		
4	11) 発達段階や健康状態をふまえ、アセスメントできた		
	12) 対象の発達段階・個性・安全・安楽・自立性を考慮した日常生活援助ができた		
	13) 対象の個性、成長・発達を考慮した遊びや学習などの援助ができた		
	14) 実施した援助を評価・修正し、次に活かすことができた		
	15) 対象と家族にかかわる多職種の中の看護師の役割を理解できた		
5	16) 対象と家族にかかわる多職種との協働・連携の実際が理解できた		
	17) 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレンス等に挙げ、積極的に意見交換できた		
	20) 看護実践を通して、自らの看護観を表現できた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	

母性看護学実習

対応 DP:2

履修年次:	3年次	単位数:	2 単位	時間数:	90 時間
目的:	母性の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥各期における母性および新生児の看護を学ぶ。				
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥および新生児期の経過をふまえ、対象を理解できる 2. 看護者として主体的にかかわり、対象との人間関係を築くことができる 3. 対象の経過を理解し、ウェルネスの視点をもち、援助ができる 4. 周産期医療における保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 看護実践を通して、自らの看護観を深めることができる 				
実習展開:					
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 				
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 自己の努力目標について個人面接を行う。 ・ 褥婦と新生児を受け持つ。情報用紙を活用し、妊娠期からの経過を情報収集する。 				
2 日目以降	<p>【産褥期および新生児期の看護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに褥婦や新生児の経過に応じた看護を看護師または教員とともに実践する。 ・ 母子双方の状況を理解し、ウェルネスの視点で必要な援助を考える。 ・ 実施した援助の内容や対象の反応、評価を含めて報告する。 ・ 日々記録を用いて、援助の意味づけをし、今後の援助につなげる。 ・ 対象のセルフケアを支援するための学習支援を計画または実施する。 ・ 毎日30分程度、学生カンファレンスを行う ・ カンファレンスの時間を活用し、母子の看護の方向性について検討する。 <p>【妊娠期の看護】 外来実習1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦を受け持ち、問診から診察、学習支援導等の見学を通し、妊婦健康診査の実際について学ぶ。 ・ 2週間健診、母親学級や母乳外来、1か月健診など、機会があれば参加する。 <p>【分娩期の看護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分娩第1期から産婦を受け持ち、観察や援助を助産師と共に実施する。 				
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ まとめのカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 				
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での学びを整理し、自己の母性観等を自由に語り合い、経験の意味づけを行う。 ・ 自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 				
時間・期間:	オリエンテーション:	2 時間			
	病院:	8 時間(8:30~15:30)×10 日			
	学内:	8 時間(8:30~15:30)× 1 日			
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1) メモ帳 2) 評価表 3) 学びのレポート 4) 日々記録(歴順) 5) 情報用紙(褥婦・新生児) 6) 援助計画書・学習支援計画書				
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。				

母性看護学実習 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 対象の妊娠・分娩・産褥および新生児期の生理的変化を理解できた		
	2) 対象の発達段階や社会的役割、経過に伴う心理的特徴を理解できた		
	3) 妊娠・分娩・産褥、新生児期の一連の過程をふまえて対象を理解できた		
2	4) 母と子の絆、家族関係を理解できた		
	5) 対象に関心を持ち、身体的、精神的、社会的状態をふまえ、かかわることができた		
	6) 対象の思いや価値観を尊重する姿勢でかかわることができた		
	7) 対象とのかかわりを通し、自己の考えや言動を振り返ることができた		
	8) 対象の状況を考慮し、自己の考えや思いを相手に伝えることができた		
3	9) 妊娠・分娩・産褥および新生児の必要な情報を意図的に収集できた		
	10) 生理的変化をふまえ、経過に応じたアセスメントができた		
4	11) 母と子が順調に経過するための援助を立案できた		
	12) 安全・安楽・自立を考慮し、対象にあわせた援助が実施できた		
	13) 退院後の生活をふまえた援助の必要性を理解できた		
	14) 実施した援助を評価・修正し、次に活かすことができた		
	15) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できた		
	16) 対象にかかわる多職種との協働・連携の実際が理解できた		
5	17) 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレンス等に挙げ、積極的に意見交換できた		
	20) 看護実践を通して、自らの看護観を表現できた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	

精神看護学実習		対応 DP:2
履修年次:	3年次	単位数: 2 単位 時間数: 90 時間
目的:	精神に障害のある人およびその家族とのかかわりを通して、対象を全人的に理解し、その人に必要な看護の基本的知識、技術、態度を習得する。	
目標:	1. 精神に障害のある人と家族を理解できる 2. コミュニケーションを通し、治療のかかわりができる 3. 対象の健康的側面を活かした援助ができる 4. 精神医療における保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 精神看護を通して、自らの看護観を深めることができる	
実習展開:		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 	
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院・病棟オリエンテーション ・ 精神に障害のある患者を一人受け持つ ・ 自己の努力目標について個人面接を行う 	
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々記録をもとに看護師と行動調整し、行動計画を修正する。 ・ 受け持ち患者の発達段階や社会的役割、健康状態に影響を及ぼしている原因や経過、症状のメカニズム、治療の影響について理解する。 ・ 注目した構成要素からアセスメントを行い、看護計画まで立案する。看護計画に基づいて看護を実践する。対象の反応をふくめて振り返り、計画を評価する。 ・ 援助を実施した後は、実施した内容や対象の反応、評価を含め報告し、次の援助へつなげる。 ・ 受け持ち患者に必要な援助は、援助計画書をもとに、日々記録に追加修正したものを活用し、看護師または教員と調整して実施する。 ・ 対象とのかかわりの中で、気がかりな場面についてプロセスレコードを記載し、グループで検討する。 ・ 毎日 30 分程度の学生カンファレンスを行う。 ・ 学生カンファレンスの中で、主要な看護問題（アセスメントを含む）と看護計画を1つ発表する。 	
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、次の実習に向けた課題を明確にする。 ・ 病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 	
地域生活支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者と共にプログラムに参加する。 ・ 利用者のニーズや社会参加の拠点をどのように活用しているのかを知る。 	
実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での学びを整理し、臨地実習を終えて感じたことや考えたことを自由に語り合い、経験の意味付けを行う。 ・ 自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認等を行う。 	
時間・期間:	オリエンテーション: 2 時間 病院: 8 時間(8:30~15:30) × 9 日 地域生活支援施設: 8 時間(8:30~15:30) × 1 日 学内: 8 時間(8:30~15:30) × 1 日	
提出物:	実習ファイル(以下のものを上から順にとじる) 1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順) 5)情報用紙 6)アセスメント用紙 7)看護計画 8)プロセスレコード ※必要時 9)援助計画書	
評価:	自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。	

精神看護学実習 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 対象と家族を多角的に理解できた		
	2) 精神障害の病態、経過、治療の内容・目的・影響を理解できた		
	3) 地域で生活する対象と家族を理解できた		
2	4) 対象のこれまでの経験から言動の意味を理解できた		
	5) 対象と家族の価値観を尊重したかわりができた		
	6) かわりの意図を考えながら、自ら対象とかわることができた		
	7) コミュニケーションを通して治療的かわりができた		
	8) 患者－看護師関係を通して、自己の傾向を振り返ることができた		
3	9) 必要な情報を意図的に収集できた		
	10) 発達段階および健康状態をふまえ、アセスメントできた		
4	11) 対象と家族の状態に応じた看護計画を立案できた		
	12) 対象の健康的側面を活かした援助ができた		
	13) 対象に必要な看護を安全・安楽・自立に配慮し実施できた		
	14) 実施した援助を評価・修正し、次に活かすことができた		
	15) 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できた		
	16) 対象にかかわる多職種との協働・連携の実際が理解できた		
5	17) 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれた		
	18) 事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の気づきや考えをカンファレンス等に挙げ、積極的に意見交換できた		
	20) 看護実践を通して、精神看護について表現できた		
合計(点)			

欠課時間：	時間	教員サイン：
-------	----	--------

統合実習		対応 DP:5
履修年次:	3年次	単位数: 2 単位 時間数: 90 時間
目的:	保健医療福祉チームの一員として実務に即した看護実践から、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。	
目標:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師とともに実践する多重課題の中で、対象を尊重し、かかわることができる 2. 看護管理の実際を理解できる 3. 病院・病棟における医療安全・災害管理・感染管理を理解できる 4. 保健医療福祉チームの一員として責任をもって行動できる 5. 実務に即した看護実践を通して、自らの看護観を深めることができる 	
実習展開:		
オリエンテーション (学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習 ・ オリエンテーション 	
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院管理オリエンテーション(医療安全・災害管理・感染管理含む)、病棟オリエンテーションを受ける。 ・ 自己の努力目標について個人面接を行う。 ・ 患者を一人受け持つ。 	
2 日目以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護チームの一員として看護師と行動を共にし、指導を受けながら病棟の看護計画に沿って受け持ち患者の看護を主体的に実践する。受け持ち患者以外の援助については、見学を基本としながら、看護師の指導のもと可能な範囲で実施する。 ・ 看護師と行動を共にする中で、看護師の業務の実際や情報収集の仕方、業務計画の立案、実施について学ぶ。 ・ 看護過程の展開については、情報用紙の整理および重要な構成要素のアセスメントを行う。必要時、病棟の看護計画の評価・修正を看護師と共に行う。 ・ 次の勤務帯への申し送りを看護師と共に行う。 ・ 受け持ち患者について多職種と連携・協働し、看護の役割を学ぶ。 ・ 2 週目からは、看護師と共に看護を実践し、看護師が担当している複数患者の中で、受け持ち患者の優先順位や時間管理を考える。 ・ 毎日 30 分程度の学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>【1 週目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 師長より説明を受け、管理の実際を学ぶ。 ・ チームリーダーにつき、リーダーを体験する。 ・ チームメンバーおよび多職種との業務調整を学ぶ。 ・ インシデントの共有方法や病棟の取り組みについて説明を受け、医療安全について学ぶ。 ・ 防災訓練や災害管理への取り組みについて説明を受け、災害管理について学ぶ。 ・ 感染対策への取り組みについて説明を受け、感染管理について学ぶ。 <p>【2 週目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間実習を 1 日行い、夜間の看護管理について学ぶ。 ・ 夜間実習は看護師と行動を共にし、見学を基本としながら、看護師の指導のもと可能な範囲で援助を実施する。 ・ 原則として、夜間実習の翌日は学内学習とする。 	
病棟最終日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価面接を行い、目標の達成についてふりかえり、自己の課題を明確にする。 ・ 病棟ごとにまとめたカンファレンスを行い、実習での気づきや学びを整理し、共有する。 	

実習最終日 (学内実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での学びを整理し、保健医療福祉チームの一員として実務に即した看護実践から、看護におけるマネジメントと新人看護師になる抱負を語りあう。 ・自己学習時間は、実習ファイルの整理、技術到達度の確認を行う。 												
時間・期間:	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">オリエンテーション:</td> <td style="width: 70%;">2 時間</td> </tr> <tr> <td>病院:</td> <td>9 時間 (原則として 8:30~16:15)×7日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9 時間 (12:15~20:00) × 1 日 (夜間実習)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5 時間 (8:30~12:15)×1 日 (病院最終日)</td> </tr> <tr> <td>学内:</td> <td>6 時間 (10:00 ~15:30)× 1 日(夜間実習翌日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5 時間 (8:30 ~12:15)× 1 日(最終日まとめ)</td> </tr> </table>	オリエンテーション:	2 時間	病院:	9 時間 (原則として 8:30~16:15)×7日		9 時間 (12:15~20:00) × 1 日 (夜間実習)		5 時間 (8:30~12:15)×1 日 (病院最終日)	学内:	6 時間 (10:00 ~15:30)× 1 日(夜間実習翌日)		5 時間 (8:30 ~12:15)× 1 日(最終日まとめ)
オリエンテーション:	2 時間												
病院:	9 時間 (原則として 8:30~16:15)×7日												
	9 時間 (12:15~20:00) × 1 日 (夜間実習)												
	5 時間 (8:30~12:15)×1 日 (病院最終日)												
学内:	6 時間 (10:00 ~15:30)× 1 日(夜間実習翌日)												
	5 時間 (8:30 ~12:15)× 1 日(最終日まとめ)												
提出物:	<p>実習ファイル(以下のものを上から順にとじる)</p> <p>1)メモ帳 2)評価表 3)学びのレポート 4)日々記録(歴順)</p> <p>5)情報用紙・アセスメント用紙 6)援助計画書・学習支援計画書</p>												
評価:	<p>自己評価、実習指導者評価をふまえ、教員が総合的に評価する。</p>												

統合実習 評価表

KPYSN

実習期間：	クール	年	月	日	～	月	日
回生	クラス	学籍番号	氏名				

※学生は太枠内を記入 5：よくできた 4：できた 3：なんとかできた 2：努力が必要

目標	評価項目	学生評価	教員評価
1	1) 対象に必要な治療・処置・検査・看護援助等の情報を収集できた		
	2) 看護の根拠をふまえ、看護計画に基づき看護を実践できた		
	3) 複数患者を受け持つ中で、対象に主体的にかかわることができた		
2	4) 複数患者を受け持つ中で、対象の優先順位をふまえ、行動計画を考えることができた		
	5) 複数患者を受け持つ中で、時間管理を考えて行動できた		
	6) 受け持ち患者とともに、他の患者に関心を寄せてかかわることができた		
	7) 看護管理の実際が理解できた		
	8) 看護管理の必要性を理解できた		
3	9) 医療安全の取り組みを理解できた		
	10) 災害管理の取り組みを理解できた		
4	11) 感染管理の取り組みを理解できた		
	12) 看護を継続するための引継ぎの実際が理解できた		
	13) 看護管理者およびチームリーダー、チームメンバーの役割を理解できた		
	14) 多職種連携における看護師の役割を理解できた		
	15) 多職種カンファレンスに参加し、情報を発信・共有できた		
	16) チームの動きを意識して行動できた		
5	17) 自己の傾向をふまえ、報告・連絡・相談しながら取り組むことができた		
	18) 主体的に事前学習や追加学習を行いながら実習をすすめることができた		
	19) 自己の考える看護管理について述べることができた		
	20) 看護実践を通して、自らの看護観を表現できた		
合計(点)			
欠課時間：	時間	教員サイン：	